

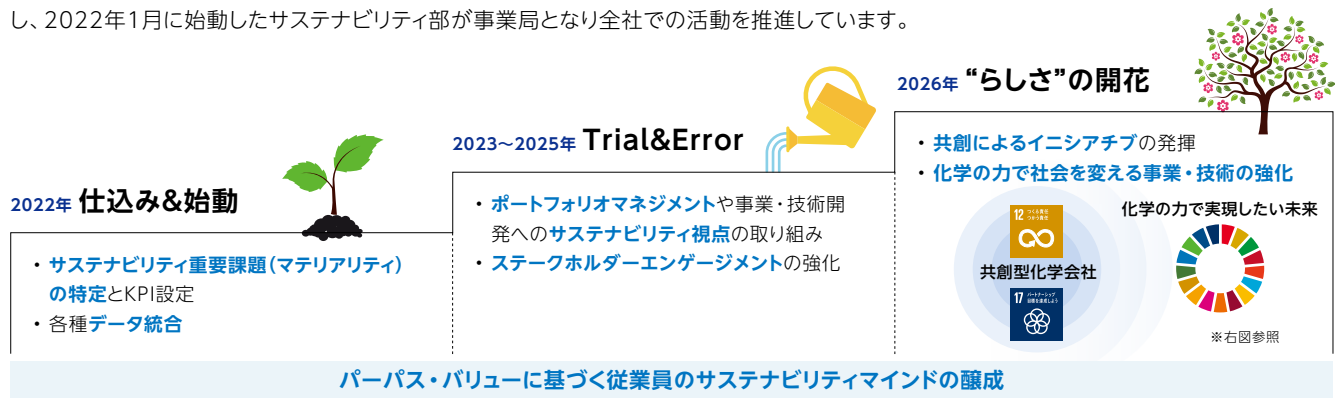
## サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)

パーパスに基づき「化学の力で社会を変える」ためには、経営の根幹にサステナビリティの概念を据える必要があると考え、執行体制の強化を進めています。その一環として、「サステナビリティビジョン2030」を設定すると共に、長期ビジョンの主要戦略を実行するためのサステナビリティ重要課題を特定し、社内浸透を進めています。

### サステナビリティビジョン2030達成までの道筋

2023年の統合新会社スタート前年である2022年を「サステナビリティビジョン2030」達成に向けた仕込みの年と位置づけ、社内で議論を重ねてマテリアリティを中期目標に落とし込むなど体制を構築しています。2023年からは実践を繰り返し、社内外のステークホルダーとのエンゲージメントを通じて取り組みを進化させ、2026年以降を目途に私たち“らしさ”を開花させることを目指します。

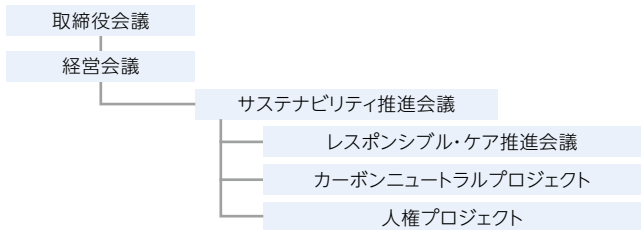
「サステナビリティビジョン2030」達成に向けて、①サステナビリティマネジメントの強化による経営戦略・事業戦略との一体化、②サステナビリティを軸に据えた事業・技術の開発による成長の源泉の創出、③カーボンニュートラルをはじめとする組織横断的な課題の解決による価値創出、④ステークホルダーエンゲージメントの強化による価値創造、⑤従業員のサステナビリティマインドの醸成の五つを重点領域と設定し、2022年1月に始動したサステナビリティ部が事業局となり全社での活動を推進しています。



### サステナビリティ推進体制

当社のサステナビリティは、CEOが統括、CSOが推進責任を担い、経営陣、コーポレート部門、事業部・事業所、グループ会社が一体となって組織横断プロジェクトや社内連携を推進しています。サステナビリティに関する方針や計画をはじめとする重要事項については、経営会議での審議・決定の上、取締役会に討議・報告する体制としています。また、CEOを含むグループCXOが集まるサステナビリティ推進会議を月に一回開催し、中長期の戦略や非財務KPI、ステークホルダーとのエンゲージメントなどについて議論しています。また、同会議の下にプロジェクトなどを設置し、具体的な課題に対して機動的かつ組織横断的に対応する体制としました。また、さまざまな所属、属性の役員

#### サステナビリティ推進体制（2022年6月30日現在）



#### 執行役員勉強会

2022年3月に実施した執行役員勉強会では、サプライチェーン上のリスクに対する認識や気候変動問題への対応の重要性などのサステナビリティ上の課題や、事業上活用している自然資源(水力発電など)の社会・環境へのインパクトなど、パーパスを踏まえてさまざまな議論を行いました。

#### 新入社員研修

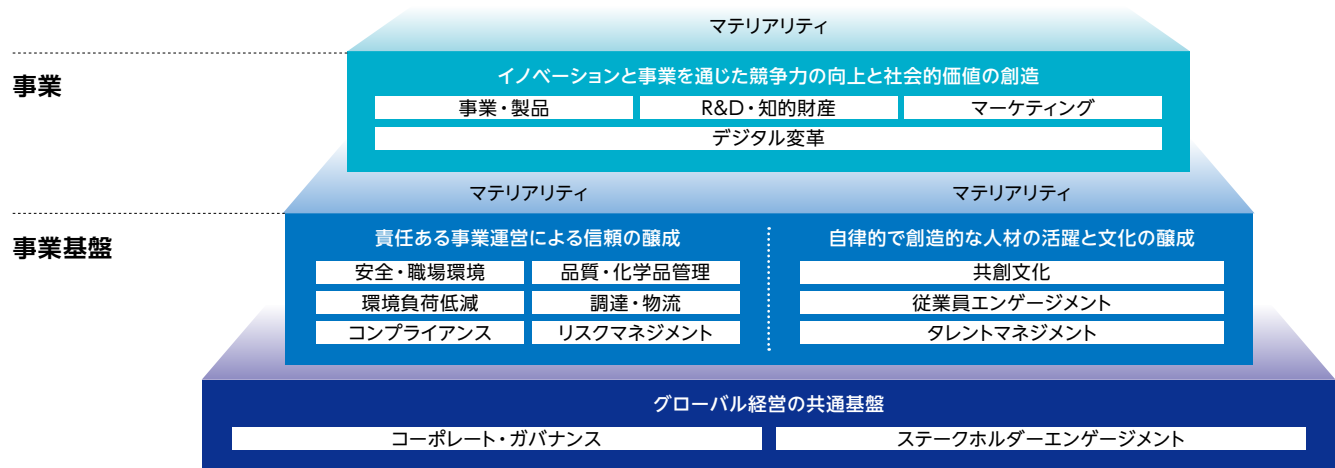
2022年4月に実施した新入社員研修で「サステナビリティ貢献を通じて利益は創出できるのか」をテーマにグループワークを実施しました。将来を担う世代として、当社の事業構造や現状の制約にとらわれない、社会課題に真摯に向き合うフラットな意見が多く出されました。

#### 取締役・監査役との意見交換会

2022年5月に実施した取締役・監査役との意見交換会では、執行側のサステナビリティに対する覚悟を共有するとともに、中長期的な価値創造の担い手である人材の育成やさまざまなリスクを把握した上での意思決定の重要性などについて活発に議論を行いました。

### サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)

2030年を見据えた3つのマテリアリティとその構成要素を特定し、長期ビジョンの戦略(④P.27)へ反映すると共に、2025年を目途とする非財務KPIに落とし込んでいます。なお、3つのマテリアリティは2030年までの長期ビジョンの目指す姿(世界で戦える会社、持続可能なグローバル社会に貢献する会社、国内の製造業を代表する共創型人材創出企業)と関連しており、当社長期ビジョンの達成と社会からの期待の両面をカバーしたものとなっています。また、KPIは設定しないもののマテリアリティと同等の重要性を有するグローバル経営の共通基盤として、コーポレート・ガバナンスとステークホルダーエンゲージメントにも力を入れています。



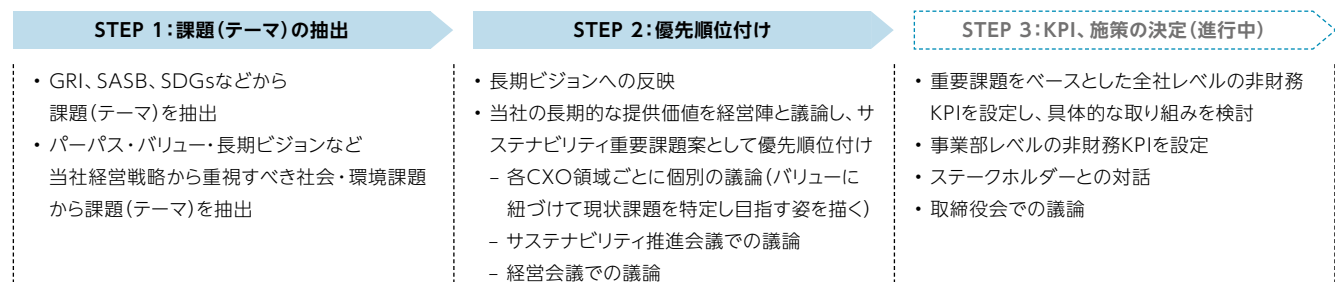
#### 事業を通じたSDGs達成への貢献

当社の企業活動の中心を、循環型社会を目指す共創型化学会社としての12番と17番への貢献と位置づけました。事業・製品を通じて貢献するゴールを上半円に、事業基盤を通じて自らが貢献するゴールを土台におきました。既に事業を通じて貢献している領域を超え、その先の「化学の力で実現したい未来」への貢献を目指します。



### サステナビリティ重要課題(マテリアリティ)と非財務KPI策定プロセス

マテリアリティの特定に当たっては、社会からの期待と当社における重要度の両面から長期ビジョン達成に資する課題を抽出しました。現在、マテリアリティとそれに紐づく戦略と施策や全社レベルの非財務KPIの策定を開始しており、今後、事業部レベルのKPIの設定を含め、取締役会との議論やステークホルダーとの対話を通じて進化させていく予定です。



サステナビリティ重要課題（マテリアリティ）

サステナビリティ重要課題（マテリアリティ）と非財務KPIについて

2030年を見据えたマテリアリティとそれに紐づき設定する中期の非財務KPIは、策定から実行、進捗確認、そして取締役会による監視監督に至る一連の全社マネジメントサイクルにのせることで、達成への確度を高めていきます。

下表は3つのマテリアリティに基づく主なコーポレートレベルのKPI（一部抜粋）です。今後は各事業部単位に落とし込むと同時に、引き続き社内で議論を重ね、従業員のモチベーション向上につながるよう具体的な取り組みも決定していきます。

これらKPIは進捗に応じて、またさまざまな社内外ステークホルダーの意見や期待を受け止めて、不断の見直しをしていきます。

イノベーションと事業を通じた競争力の向上と社会的価値の創造

当社の思い	私たちの思い	私たちの成長の源泉は、技術力を活かし、化学の力で社会を変える事業活動です。 社会的価値創造に向けて、イノベーションと事業を通じた競争力向上を目指します。
	2030年目標	社会課題の発見から技術開発、新たなビジネスモデルを通じたソリューションの提供という一連のプロセスと、共創を通じたイニシアチブの発揮により、事業を通じて社会的価値を創出します。
	マテリアリティ実現に向けた重要な構成要素	<ul style="list-style-type: none"><li>事業を通じた社会的価値の創出</li><li>マーケティングを通じた社会課題の発見と顧客価値の提供</li><li>オープンイノベーション&amp;協業の促進</li><li>社会課題を解決するR&amp;D・知財戦略</li><li>SDGsに貢献する製品・事業戦略</li><li>社会的価値創造を強化・加速するデジタル変革</li></ul>
KPI ※今後、ステークホルダーと対話し確定予定	重要項目	<ul style="list-style-type: none"><li>サステナビリティ事業・製品評価指標の確立と目標設定</li><li>LCA(Life Cycle Assessment)への取り組み</li></ul>
	2025年目標	<ul style="list-style-type: none"><li>事業あるいは主要製品ごとの目標設定、実行・モニタリング</li><li>主要製品のLCAの算出、研究開発段階での評価手法の導入</li></ul>
	2021年実績	<ul style="list-style-type: none"><li>新たな社会・環境側面を含む事業評価指標策定に向けた検討開始</li><li>CFP(Carbon Footprint)算定スキームのパilot運用開始</li></ul>
価値創造	社会的価値 環境的価値	<ul style="list-style-type: none"><li>さまざまな産業の起点である化学メーカーとしての直接的かつ間接的な社会および環境価値を創出</li><li>全ての事業において「つくる責任 つかう責任」の徹底を通じた社会および環境へのポジティブインパクトの最大化とネガティブインパクトの最小化</li></ul>
	経済的価値	<ul style="list-style-type: none"><li>社会的・環境的価値の提供を通じた事業成長により経済的価値を創出し、企業価値の向上に貢献</li><li>事業を通じたパーパス実現の実感による従業員のモチベーションの向上</li></ul>

責任ある事業運営による信頼の醸成

当社の思い	私たちの思い	化学メーカーとして、安全・環境・品質などの視点から、全ての事業において責任ある事業運営を行い、サプライヤーや顧客などのステークホルダーと共にサステナブルな社会を実現します。加えて、法令遵守を超えたソフトローベースのコンプライアンスを徹底し、多様化・複雑化するリスクのマネジメント体制を強化し高度化していきます。
	2030年目標	安全文化の醸成と各種事故などの根絶に加え、戦略・オペレーション・ハザードなど広範囲にわたるさまざまなリスクの最小化と対応準備を図り、変化する経営環境・事業環境に柔軟に対応して当社らしい価値を提供し続けることで、ステークホルダーの信頼を獲得します。
	マテリアリティ実現に向けた重要な構成要素	<ul style="list-style-type: none"><li>全ての人が安心して働ける環境の提供</li><li>顧客価値最大化のための品質・安全の提供</li><li>製品ライフサイクル全体の環境負荷低減</li><li>サプライヤーと共にサステナブルな社会を実現</li><li>法令遵守を超えたソフトローベースのコンプライアンスの徹底</li><li>多様化・複雑化するリスクのマネジメント体制の強化</li></ul>
KPI ※今後、ステークホルダーと対話し確定予定	重要項目	<ul style="list-style-type: none"><li>安全文化の醸成および労働災害、設備事故、環境事故、製品事故、品質コンプライアンス違反の根絶</li><li>事業活動を通じた環境負荷の低減</li><li>サステナブル調達の推進</li><li>統合的なリスクマネジメントの強化と法令遵守を超えたコンプライアンスの徹底</li></ul>
	2025年目標	<ul style="list-style-type: none"><li>5つのゼロを達成</li><li>温室効果ガス排出量の削減</li><li>サプライヤー自己診断票を活用したコミュニケーションの質の向上</li><li>グローバルコンプライアンススタンダードと行動規範のグループ内浸透</li><li>統合的リスクマネジメント体制の構築と運営、リスクマネジメントシステムの高度化</li></ul>
	2021年実績	<ul style="list-style-type: none"><li>重大労働災害、重大設備事故、環境事故、品質コンプライアンス違反発生件数ゼロ</li><li>新サステナブル調達ガイドラインの検討開始(2022年に策定・開示見込み)</li><li>新リスクマネジメントシステム、グローバルコンプライアンススタンダード、行動規範の検討開始(2022年に導入・策定・開示見込み)</li></ul>
価値創造	社会的価値	<ul style="list-style-type: none"><li>責任ある事業運営を通じた化学メーカーとしての社会課題への貢献と責務の両立</li></ul>
	環境的価値	<ul style="list-style-type: none"><li>温室効果ガス排出量削減と廃棄物削減を通じたりサイクル率向上などによる環境負荷の低減</li></ul>
	経済的価値	<ul style="list-style-type: none"><li>各種事故などの根絶や社内プロセスの効率化によるモチベーション向上、生産性向上、コスト削減、ブランド価値向上</li></ul>

自律的で創造的な人材の活躍と文化の醸成

当社の思い	私たちの思い	お客さまや将来世代を含むさまざまなステークホルダーと、共感・共鳴で自律的につながり、共創を通して、創造的に課題を解決する「共創型人材の創出」「企業文化の醸成」こそが、当社の価値の源泉です。
	2030年目標	自律的、創造的な共創型人材の育成と企業文化の醸成を通じ、「当社で働いているような人が欲しい」と言われる人材創出企業になることを目指します。
	マテリアリティ実現に向けた重要な構成要素	<ul style="list-style-type: none"><li>互いへの信頼と尊重から生まれる共創文化の醸成</li><li>自律的・創造的なプロフェッショナル人材の育成と獲得</li><li>従業員エンゲージメントの強化</li></ul>
KPI ※今後、ステークホルダーと対話し確定予定	重要項目	<ul style="list-style-type: none"><li>経営理念の実践</li><li>タレントマネジメントの強化</li><li>個人と組織の持続的な成長</li><li>ダイバーシティ&amp;インクルージョンの深化による人材の活躍、心理的安全性の確保</li></ul>
	2025年目標	<ul style="list-style-type: none"><li>グローバルアワードにおける共創事例の進化と深化</li><li>自律的なキャリアの構築に寄与する社内公募の成立数増</li><li>エンゲージメント関連スコアの向上</li><li>女性管理職比率の向上による経営幹部の多様性の向上とインクルーシブな企業文化醸成</li></ul>
	2021年実績	<ul style="list-style-type: none"><li>統合新会社のグローバルアワード(パーパス・バリューの体现を加速する場)の設計と始動</li><li>統合新会社の社内公募の運用設計</li><li>女性管理職比率(国内4.5%、グローバル11.5%)</li></ul>
価値創造	社会的価値 環境的価値	<ul style="list-style-type: none"><li>自律的・創造的な共創型人材の成長、活躍と企業文化の醸成により、社会課題解決に向けた社内外の共創によるイノベーションを推進</li></ul>
	経済的価値	<ul style="list-style-type: none"><li>経営陣が全社最適視点でリーダーを育成し、戦略的なジョブローテーションを通じて人材の競争力を高めることにより、モチベーションの向上と高い生産性を実現</li></ul>

サステナビリティ重要課題（マテリアリティ）と非財務KPIについて

マテリアリティとKPIの設定にあたり、外部有識者と対話しました。



株式会社ニューラル  
代表取締役CEO  
**夫馬 賢治氏** WEB

**夫馬**:社会課題を解決するには、素材、化学の力が欠かせません。やるべきこと、やれることは沢山あります。事業環境の変化は2030年以降は今よりもっと激しくなりますから、現長期ビジョン期間を2030年以降にイノベーションの果実を実装していくための準備の8年半と位置づけ、ヒト、モノ、カネ、時間の制約をなくしていってはどうでしょうか。KPIは最初から100点である必要はなく、1歩でも2歩でも現状から動かすこと、担当部門に「動き出そう」と思ってもらうことが大事です。KPIは決めておしまいではなく、見直しが必要ですから、社内で議論を重ね丁寧に策定していくプロセスはとて面白い。しかし、「世界で戦える会社」「世界で仲間をつくる会社」になるにはグローバル視点を加えるべきです。目線をより長く持ち、ありがたい姿からバックキャストすることが必要です。人の領域を重視している点もとてもよいと思いました。が2040、50年に経営の中心となる年代を巻き込むことが必要です。また、将来世代の育成を社内に関じず行っていくてもいいのではないのでしょうか。

**サステナビリティ部**:中期KPIを2030年を見据えた最初の一步と位置づけてきましたが、もう少し歩幅を大きく捉えること、グローバル視点を入れること、そして全従業員が「動きたい」と思うようなマインドを醸成することが課題と再認識しました。また、STEAM教育\*など、将来の当社にも社会にもプラスになる活動も視野にいらていきます。

\* STEAM:Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Art(芸術)、Mathematics(数学)の略。



環境安全担当  
**才畑 明子** WEB

安全が最優先かつ原則です。事故災害ゼロ、環境事故ゼロを掲げ続けます。中途半端な数字は掲げません。なぜなら、誰かがつらい思いをしていいわけではないから。制度・仕組みに一つずつ落とし込みながら、徹底的にコミュニケーションを取り続けます。



リスクマネジメント担当  
**筒崎 智孝** WEB

コンプライアンス担当  
**吉田 大輔** WEB

両社グループのいいところ取りをしながら、よりよいものへ。さらなる事業成長と持続的社會への貢献を支えるために、オペレーショナルリスクおよびハザードリスクと戦略リスク管理の統合や、多種多様な従業員が地域を超えて拠り所にできるグローバルスタンダードを整備しています。また、現在、全社横串チームで行動規範を策定中です。

※ 対話やインタビューの詳細をウェブサイトで紹介しています。